

---

# あなたと作る狩物語

ウーヅの使い

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>



## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

あなたと作る狩物語

### 【Nコード】

N5289N

### 【作者名】

ウージの使い

### 【あらすじ】

ハンターを目指した少年時代、それをすべて失った少年は故郷も失ったが新たな場所で一步を踏み出し始める。一人では作れない物語。誰かが横にいるからこそ、無限に生まれる狩物語。

今、その幕が開かれる。



## ブログ 少年も崖から落ちる（前書き）

こんにちは、ウージの使いです。

ある作品を見て、どうしても書きたくなったモンスターハンター。

更新は遅くなることが予想されますが、

どうぞよろしくお願いいたします。



## ブローグ 少年も崖から落ちる

「はあ、はあ、はあ……」

少年と少女は、暑い密林であるにもかかわらず全力ダッシュで走っている。

小さい体であるにもかかわらずその服装は一部装甲もあり重たい。だから余計に体力を使うが、そんなことは言っていられない。とにかく、走ることしか考えていなかった。

人間とモンスターが共存する時代。

人々はモンスターの脅威に怯えつつも、各地で町や村を作り、生活を営んでいた。

だが、いつモンスターが人間に危害を加えるかわからない。

そんな人々を救い、モンスターと戦う人々が存在する。

彼らは尊敬の念を込めてこう呼ばれる。

”ハンター”と。

ハンターたちは通常、ハンターをまとめるいわばハンター連盟ともいえる”ハンターズギルド”に属している。これにより、ハンター達はクエストと呼ばれる依頼を受けギルドが定めた狩り場へと向かう。

この密林もまた、狩り場の一つだった。



うつそうと生える木々に、じめじめとして暑い気候。

ここではコンガという牙獣種やランポスといった鳥竜種のモンスター、

草食のアプケロスなどが生息しているほか、時には飛竜と呼ばれる大型のモンスターが現れる場所であった。

しかし、その湿度からキノコがよく生えている。

なかでも「特産キノコ」と呼ばれるキノコは小さいが味はおいしく、大富豪ですら好む者もいるほどである。しかし、生えている場所にモンスターが出没することもあるため、採集をハンターに依頼することも多い。「採集クエスト」と呼ばれるこのクエストが、今まさに密林で行われていた。

少年少女がダッシュする数分前。

彼らは孤児であり、モンスターに襲われて親がいなかった。

そのため、一人のハンターが二人を引き取り世話をしていた。

言い忘れていたが、二人は兄弟ではない。それぞれ別の親がいたのだが、二人とも同じ村の住人だったので同じハンターの元で暮らすようになったのだ。

そしてそのハンターは採集クエストなど危険度が低いクエストには二人を連れていった。

どうやら二人に後を継げるほどのハンターになってももらいたかったようであり、それは二人の目標でもあった。

「ふう、これで10本だね」

「まだ依頼の半分かぁ」



少女の嬉しそうな声と比べ少年の声は重い。

少年は薄い紫、少女は明るい緑色の髪をしており

二人ともバトルシリーズと呼ばれるケルビやブルファンゴの毛皮からできた

鎧を身につけており少年の背には鉄刀という太刀が、少女の背にはチーフシッケルという

双剣があった。

「先生、どこ行っただろうな」

「ランポスの群れを追っていちゃったもんね……ドスランポスがいるかもって」

ドスランポスは肉食のランポスの群れを統べるリーダーであり、通常のランポスよりはるかに危険なのだ。

「だからってさ……」

クエエエエエエ！

突然聞こえたモンスターの声に二人はハッとして空を見る。  
そこには翼を広げ飛んでいた大きなモンスターの姿が。

「あれは……イヤンクック!?」

「やばい、逃げるぞ!!」

桃色の体に大きな耳をしたイヤンクックは鳥のような姿だがそのサイズはふつうの鳥よりもはるかに大きい。ハンターの登竜門として有名だが、二人にとってはいくらなんでも早すぎる相手であった。



「「はあ、はあ、はあッ……」」

二人は一気に逃げ出した。しかし、それを見ると陸に降り立っていたイャンクックは

「クエエエエエッ！」

叫び声をあげると二人のほうへ走ってきた。

「うわっ、来たあ！」

少女が泣き声に近い声を上げる。  
さらに悪いことに……

「おい、今度はランポスカよ！」

ダッシュする二人の目の前に現れたのは青い体をした肉食の鳥竜種、ランポス。

特に強いというわけではないのだが、群れで責められると厄介だ。

「くっ……この！」

「おらあ！」

二人は武器をふるってランポスを蹴散らす。  
クエエエエエ！

だが、再びあの怪鳥の声が聞こえた。

ものすごく近くから。

「「わあああああつー！」」



再び少年と少女はダッシュで逃げ始める。  
だが、さすがにスタミナが限界だった。

「はぁ、もう……ダメ……」

とうとう少女が膝をつく。

「大丈夫かミチル！」

少年が慌てて駆け寄る。

だが、その後ろからはイャンクックが走ってくる。

「ちょっと、休ませて……」

「わかった。ここにいろよ」

そういつて少年は太刀を抜いた。

ミチルがダウンした以上、もう逃げるわけにはいかない。  
目の前に近づいてきたイャンクックとにらみ合うと

「はぁぁぁあ！！！」

距離を詰め、相手に斬りかかる。

しかし、攻撃を食らったらひとたまりもないのですぐに離れる。

だが、再び斬りかかるうとした瞬間、イャンクックは翼を広げ急に  
飛び立った。

「うわっ！」



その風圧に、小さく軽い体はあっさり飛ばされる。  
……よりによって、崖の向こうへ。

その瞬間はミチルにもはつきり見えた。

「わああああああああああっ!!」

崖下に落ちていく少年を見て、ミチルは叫ぶことしかなかった

……

「いや、そんな、レリード!

いやああああああああああああああっ!!!!」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5289n/>

---

あなたと作る狩物語

2010年10月9日19時01分発行